

(案)

令和5年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議(第1回) 議事要録

- 1 日時 令和5年12月4日(月曜日) 午前10時10分～11時50分
- 2 場所 むさしのエコreゾート
- 3 出席者 小澤委員長、小林副委員長、中西委員、野村委員、村井委員、大塚委員

4 議事要録

(1)はじめに

(事務局より資料1～4を説明)

- ・設置要綱に基づき、互選により小澤委員長、小林副委員長を選任した。
- ・議事録の取扱いについて、要録をホームページで公開することとした。
- ・傍聴人は定数を5名とするが、超過する場合はできるだけ対応することとした。

(2)施設及び事業の概要

(事務局より資料5前半を説明)

- ・保育園では、環境啓発施設ならではの学びがあるのではないかと、園児と保護者の見学会を実施した。イベントを通じて、子どもたちがごみの問題に関心をもち、気づきの声に寄り添いながら、保護者とともにコーディネートできれば、市民として行動実践につながるのではないかと考えている。
- ・行政も、市内の一事業者・組織として位置付けるとよい。
- ・気づき・学びあう行動実践について、何をすれば行動実践と捉えるのか。どのような状況を目標にしているのか。
⇒(事務局)大きくは2つある。1つは2030年、2050年に向けたゼロカーボンを明確な目標として、行政が行う周知・啓発。もう1つは、大人を含め、気づき、学び合いながら、課題別コミュニティが自律的に行動するような状況につなげていくことと考えている。
- ・環境フェスタを通じて感じるのは、来場者が主体的に参加するよう変化を促すにはどうしたら良いのか考える段階だと思う。定期的なイベントに加えて、日常的に市民が集まれる施設になるとよい。
- ・環境フェスタの絵本のかえっこなどで思ってもみない分野をつなげて、持ち帰る子どもがいる。子どもの行動を見ているといろいろなことを考えさせられる。
- ・東北の高校生の事例で、地ビールを作成する過程で廃棄されるホップを使って和紙を作った。和紙の漂白について、地元の年配の人から山の植物を紹介してもらい、きれいな和紙をつくり、ふるさと納税の返礼品になっている。高校生がアイデアを実践する過程で、地域の大人を巻き込むことができる。

(3)意見交換事項の概要

(事務局より資料5後半を説明)

- ・今後、各委員から関連がある事例紹介していただきながら、次年度事業について意見交換をしていくことでよいか。
- ・エコ re ゾートのイベントをみていると、コロナ禍で人とのふれあいがなく、求めていたのではないかと思う。
- ・コロナ禍により、学校の中で先輩から後輩へ引継がれて来たものが途切れたと感じる。
- ・環境分野では、学生の方が気候変動に対する危機感を持っているように感じる。学校でSDGs など常に目標を持ちながら教育されてきた世代である。学生たちの環境意識は私たちが思うレベルより高いと考えた方がよい。やる気のある学生たちの力を引き出し、同世代の人たちがやり出だすと広がるようなプログラムのつくり方が求められる。
- ・高校生はアイデアがある。大人たちを巻込んで組織としてどう行動変容させるか。
- ・事例を通じながら今回議論を進めていく形としていく。